

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第19回相模原市観光振興審議会				
事務局 (担当課)		市長公室 観光・シティプロモーション課 電話042-769-8236(直通)				
開催日時		令和5年7月6日(木) 午前10時から午前11時30分まで				
開催場所		相模原市役所本庁舎 第2別館3階 第3委員会室				
出席者	委員	6人				
	その他	-				
	事務局	8人(郷司SDGs・シビックプライド推進担当部長ほか7人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 審議 第3次相模原市観光振興計画の中間見直しについて (1) 骨子案からの追加・修正 (2) スケジュールの修正 (3) 答申書案について 3 報告 令和5年度の取組について 4 その他 5 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

2 審議

第3次相模原市観光振興計画の中間見直しについて

(1) 骨子案からの追加・修正

事務局より説明を行った後、検討を行った。

主な意見は次のとおり。

主な意見等

(中島委員)

施策 1-1 のうち、「市内の体験型観光コンテンツの充実・集約」の検討例に「リトリート」という文言を表記している点について、リトリートとは非日常という意味であり、範囲が狭く感じる。観光業界では現在、SDGs よりも幅広い捉え方となる「サステナブル」がトレンドであり、その言葉にはリトリートも含まれることから、国際的な基準でもある「サステナブル」という文言を使用したほうがよいと思う。

施策 2-1 のうち、「観光協会の機能強化と運営支援」の検討例に「観光協会の統合」という文言がある。デリケートな問題であり、他の施策と同様に取り扱うには難しいと感じた。表現を検討いただきたい。

指標 に掲げている「1人当たりの観光客消費額」を「観光客消費額」に修正する点について、現在の国レベルにおける観光の方向性とは、人口減少により観光客消費額の総額が上がらないことから、1人当たりの消費額を上げていこうということである。コスト面を鑑みても、少ない人数で消費額を確保できるほうが効率もよく、1人当たりの観光客消費額を上げていく取組は必要である。また、観光客消費額の把握には県が実施している入込観光客調査だけでは困難であり、イベントなどにおける消費額を把握するために独自の調査を行うなど取組が必要と考える。事務局案の指標を戻すまでしなくとも、1人当たりの観光客消費額の把握は必要と考える。

(市橋課長)

「リトリート」という文言の表記は、森林浴など本市の特徴である緑が多いことを活用してはどうかという市議会からの提案を意識したものであるが、「サステナブル」の視点も重要であり、表記について検討する。

「観光協会の統合」についてはあくまでも検討例として、当初計画から記載しているものであるが、ご意見を踏まえ表現を検討する。

1人当たりの観光客消費額の算出方法は、宿泊客の観光客消費額を日帰り客の人数も含めて割り返していることから、日帰り客が多くなる程1人当たりの額が小さくな

っていく状況にあり、実態と合致しない数字が出ている。なるべく実態と近い数字を求めるに当たって、観光客消費額の総額とさせていただきたいと考えているが、ご意見の部分は課題と考えており、次回計画策定の際には、代表的な日帰りスポット部分でサンプリングを行うなど検討していきたい。

(中島委員)

何を伸ばしていくのかを決める数字の可視化は必要であり、政府全体の目標として、旅行者を1泊から1.5泊に伸ばすことを掲げている。その方向性をなおざりにして日帰りだけの観光客を追うことをいいとは思わない。DXの時代なので、データを整備してマーケティングしていかないと観光の競争に勝っていけないので、公共団体においても独自に調査していく必要があると考える。そのことが観光だけでなく経済やその他施策にもつながっていくものと思う。

第3次相模原市観光振興計画の中間見直しについて

(2) スケジュールの修正

(3) 答申書案について

事務局より説明を行った。

主な意見はなく、第18回に提示したスケジュールを修正し、答申は本審議会後に確認期間を設けて、いただいた意見に対する修正は会長一任とすることとした。

3 報告

令和5年度の取組について

事務局より、今年度の取組について説明を行った。

4 その他

各委員よりそれぞれの取組が示された。

(梶原委員)

報告で説明いただいた令和5年度の取組・予算について、直近を捉えた流れとなっていると思うが、アフターコロナにおいて、マイクロツーリズムについて方向が変わってきているなどマーケットも動いており、柔軟に対応していくことが必要である。

(中野委員)

令和5年度の取組にあるサイクルツーリズムの中で、ツーリズムにもイベントにも該当するが、城山湖から登っていくヒルクライムというイベントを行っている。県外からの参加者も多く、市からも積極的にPRしていただきたい。

また、城山で観光案内所や小規模の販売を行っている「城山自然の家」があるが、「城山観光センター」と名称を変えて取組を進めていきたいと考えている。「みんなの津久井湖夏祭り」も水の苑池で開催する。各取組の中では法政大学や農協などと連携し、

若い人を中心にして次のリーダーの育成も含めた取組を進めている。

(佐藤委員)

前回紹介したJR東日本地域ネットワーク神奈川伊豆の第1回会議を5月17日に開催し、JNTOからインバウンドに関する講義や、JR東日本企画からSNSなどのコンテンツによる効果的な情報発信に関する情報提供をさせていただいた。

観光振興計画の施策にもある情報発信の部分で、本ネットワークを活用できるのではないかと思う。様々な観光地同士のネットワークを広げて情報交換をしていきたい。

(吉村委員)

上大島キャンプ場の管理運営の中で、令和元年度と令和4年度のデータを比較している。一人で利用する「ぼっち利用」が6組から360組に増えており、特に女性の利用が増えていることから、安全対策を意識している。また、炭や着火剤の販売数は変わらないが薪の販売数が3倍に増えているほか、自転車やバイクでキャンプ場に訪れる人が増えている。ぼっち利用に相對して1組当たりの利用者が8.2人から5人に減っているが、消費額の総額は変わっていない。薪の調達に当たっては、市内のNPO法人がナラ枯れにより伐採した木を再利用しており、SDGsの取組を進めている。

その他、令和5年度の取組で説明があった城山のe-bikeツアーについて、中山間地域に向かう説明があったが、是非、自然の村にも足を向けていただき、地域連携による観光振興ができればいいと思う。

5 閉会

以上

第 19 回相模原市観光振興審議会委員出欠席名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者 ・ 専 門 家	内藤 錦樹	桜美林大学	名誉教授	会長	出席
		観光振興アドバイザー			
関 連 団 体	中島 伸幸	(公社)相模原市観光協会	専務理事	副会長	出席
	吉村 幸弘	大島観光協会	会長		出席
	中野 秀人	城山観光協会	会長		出席
	関戸 昌邦	津久井地域商工会連絡協 議会	会長		欠席
民間事業者	牧野 英太郎	(株)J T B 相模原支店	支店長		欠席
	佐藤 賢策	東日本旅客鉄道(株) 橋本駅	駅長		出席
	梶原 英俊	相模湖リゾート(株)	代表取締役 社長		出席